

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

マダラトカゲモドキ

Goniurosaurus orientalis (Maki, 1930)

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026. マダラトカゲモドキ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物， pp. 7-11.

Citation: Toda, M., 2026. *Goniurosaurus orientalis* (Maki, 1930). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 7-11.

マダラトカゲモドキ

Goniurosaurus orientalis (Maki, 1930)

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) B2ab

基準 A: —	基準 B: CR	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
---------	----------	---------	---------	---------

B2. 生息地面積が 10 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。

a) 生息地が過度に分断されているか、ただ 1 か所の地点に限定されている。

【地点数】1 地点

b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。

【判断理由】

林道の敷設により生息地周辺へのアクセスがよくなり、轢死のリスクが高まっている。また、本グループの分類が見直されたことにより本種に対する注目度が上がったため、違法採集のリスクも増大している。

評価分科会： 爬虫類・両生類分科会

概要

渡名喜島の固有種で、おもに常緑広葉樹林に覆われた地域とその周辺に見られる。生息範囲が極めて小さいうえ、集団構造も単調と予想されることから、開発や違法採集などの人為的な行為のみならず、新たな外来種の侵入や感染症の蔓延、山火事や土砂崩れなどによっても種全体が危険な水準に陥る可能性がある。

協力者： 栗田隆気（千葉県立中央博物館）・一般財団法人自然環境研究センター

基礎情報

【形態】

頭胴長はオスで最大 94 mm に達し、メスでは 100 mm を超える。胴背面に横帯と縦条成分を併せ持ち、その色が黄土色で赤味を帯びないこと、横帯の間に淡色の小班がみられること、虹彩はやや赤味を帯びつつも、クメトカゲモドキを除く琉球産の他のトカゲモドキ類ほど赤みが強くないことなどで特徴付けられる。沖縄諸島の渡名喜島に固有分布する。

【生活史】

生態や生活史はクロイワトカゲモドキに似ると考えられるが、具体的な情報はほとんどない。

【生息環境】

常緑広葉樹の自然林や回復の進んだ二次林、およびその周辺の石灰岩地などに生息する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林、岩壁・ガレ場（石灰岩地等） 【陸域_平地部】森林
---------	---

国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域, (7) 島嶼地域
---------	-------------------------

【分布域】

過去の生息状況についてはほとんど情報がなく、不明である。渡名喜村史によると、同島では農地確保のため明治時代に山に火を入れて、森林の多くが消失している。さらに、戦後も山の斜面は畑として利用されていたと記されており、本種の生息地は限られていた可能性が高い。より新しい時代では、1972 年と 1981 年にトカゲモドキを含む小動物の調査が行われているが、それらの調査では本種は発見されていない。その後、1998 年に島の南西部で複数個体が確認され、さらに島民からも発見の情報があつた。これまで集落より北側の地域からは見つかっていない。1998 年以降の記録は、林道や道路の整備によって、本種の生息環境へのアクセスがよくなったことを反映している可能性がある。

現在の生息状況

【分布域の現況】

沖縄諸島の渡名喜島に分布する。渡名喜島は面積が全体でも 3.46 km²に過ぎない。最近の調査では同島の集落よりも北側の地域からは個体は見つかっておらず、これまで個体が確認されている地点をもとに、環境や森林の連続性なども加味して本種の潜在的な生息地面積を考えた時、それはどんなに広く見積もっても 2.1 km²を越えない。地勢や植生、発見地点などの情報から、少なくとも現在は、種全体が単一の集団として存続している可能性が高い。

【生息地の現況】

1980 年代には生息地内を横断する林道が整備され、周辺域でも環境が改変された場所があり、関係する地点で生息環境の悪化ないしは部分的な消失があつたと思われる。その後

は特に大きな環境改変があったとは考え難いが、生息地周辺へのアクセスが良くなったことから轢死と違法採集のリスクが増大した。

【個体数の現況】

環境改変により、個体数は減少傾向にあったと考えられる。最近の調査では 10 を超える地点で個体が見つかるが、その範囲は広くない。資料が不足していて、個体数やその減少率を具体的に推定するのは難しいが、そもそも生息地面積がとても狭いため、生息個体数が多くないのは間違いない。個体の記録地点は全て同じ森林内に点在していることから、全てが単一の個体群に属している可能性が高い。

存続を脅かす要因

現在、大きな環境改変はみられないが、生息地面積が極端に狭く、おそらくは種全体が一つの個体群として成り立っていることから、今後仮に、山火事や台風、土砂崩れなどの災害による偶発的かつ一時的な環境の劣化などが生じた場合は種全体の生息数が危険な水準まで一気に減少する可能性がある。交通事故による個体の減耗が懸念されるうえ、潜在的には、愛玩動物としての取引を目的とした個体の違法採集のリスクも高い。イエネコによる捕食も懸念される。

要因の区分：	(過去)	違法採集，分布・産地局限
	(現在)	捕食（外来種による），違法採集，分布・産地局限

特記事項

本種を含むトカゲモドキの仲間は特に沖縄諸島のなかで細かく分化しており、その分布様式は他の陸生爬虫類とは明らかに異なる。そのため、同地域のなかでの生物の多様化の要因や、島の成立を含む同島の古地理、古環境を知るうえで重要な存在ということができ、高い学術的価値を有する。沖縄県の天然記念物に指定されている。比較的最近分類変更があったため、地方自治体のレッドリストや保護に係る法令指定、各種文献等では、分類変更前のタクソン（広義マダラトカゲモドキ）として扱われている場合があることに注意が必要。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie orientalis</i>	CR
第4次 2019:	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie orientalis</i>	CR
第4次 2018:	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie orientalis</i>	CR
第4次 2017:	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie orientalis</i>	EN
第4次 2015:	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie orientalis</i>	EN
第4次:	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie orientalis</i>	EN

第3次:	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie orientalis</i>	EN
第2次:	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie orientalis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【沖縄県】絶滅危惧 I B 類(EN)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- Grismer, L. L., H. Ota, and S. Tanaka, 1994. Phylogeny, classification, and biogeography of *Goniurosaurus kuroiwaie* (Squamata: Eublepharidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan, with description of a new subspecies. Zool. Sci., 11: 319–335.
- Honda, M., T. Kurita, M. Toda, and H. Ota, 2014. Phylogenetic relationships, genetic divergence, historical biogeography and conservation of an endangered gecko, *Goniurosaurus kuroiwaie* (Squamata: Eublepharidae), from the Central Ryukyus, Japan. Zool. Sci., 31: 309–320.
- 栗田隆気, 2021. マダラトカゲモドキ. 日本爬虫両棲類学会（編）, 新日本両生爬虫類図鑑, pp. 106-107. サンライズ出版, 彦根.
- 太田英利, 2000. マダラトカゲモドキ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（両生類・爬虫類）, pp. 28-29. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
- Ota, H., M. Honda, M. Kobayashi, S. Sengoku, and T. Hikida, 1999. Phylogenetic relationships of eublepharid geckos (Reptilia: Squamata): A molecular approach. Zool. Sci., 16: 659–666.
- 田中聡, 2005. マダラトカゲモドキ. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）－レッドデータおきなわ－, pp. 102-103. 沖縄県文化環境部自然保護課, 那覇.
- 当山昌直, 1983. 沖縄群島の両生爬虫類相（II）-座間味村の両生爬虫類. 沖縄県立博物館総合調査報告書 III-座間味村-, pp. 16-22. 沖縄県立博物館, 那覇.
- 渡名喜村（編）, 1983. 渡名喜村市上巻. 渡名喜村, 南風原町. 793 p.
- Werner, Y. L., H. Takahashi, and H. Ota, 2004. The varied foraging mode of the subtropical eublepharid gecko *Goniurosaurus kuroiwaie orientalis*. J. Nat. Hist., 38: 119–134.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Goniurosaurus orientalis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goniurosaurus orientalis* is listed as CR under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 10 km², and estimate indicating at least two of a-c: a. Severely fragmented or known to exist at only a single location. b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following: (i) extent of occurrence (ii) area of occupancy (iii) area, extent and/or quality of habitat (iv) number of locations or subpopulations (v) number of mature individuals	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Cliff/Talus area (e.g. limestone area) 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest
Threat types:	Predation (by alien species), Illegal harvesting of biological resources, Limited distribution
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora.



執筆者:	戸田守（琉球大学）
Author:	Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月